

令和7年10月30日（木）校内音楽会

仲間とつなぐ音楽のバトン

いよいよ校内音楽会が開幕します。それも、飯田麻優実行委員長をはじめとする音楽会実行委員の皆さんのおかげさまであります。ありがとうございました。

ここ数日、各学級の歌声が校内に響き渡っています。日々の練習や話合いを重ねることで、技術的な部分の向上だけでなく、学級の仲間の心が1つになってきた証のように思います。この音楽会のスローガンに「仲間とつなぐ音楽のバトン」という言葉があります。手元にあるプログラムの後ろには、私の挨拶が載っています。そこでは、音楽記号「レガート」（つなぐ）についてのお話を紹介していますので、読んでみて下さい。

ここでは、1ヶ月ほど前に、若手指揮者の登竜門であるブザンソン国際指揮者コンクールで優勝した米田覚士さんのお話をします。審査は1週間にも及ぶのだそうですが、その時に初めて出会ったオーケストラの皆さんに、指揮者として考え方や思いを伝える必要があります。オーケストラの奏者の皆さんは、外国の方々です。言葉は大きな課題でした。それでも米田さんは、コンクール後のインタビューで、こんなお話をしていました。

「言葉以上に熱量でつながれたという実感がありました。目と目で、心と心でつながることで、おのずと音が良くなるんだと言うことを初めて体感しました。」

生徒の皆さん、本日のステージで、ここまで共に頑張ってきた学級の仲間と、心と心がしっかりとつながっていることを感じ取ってほしいと願っています。

保護者の皆様、ご来校ありがとうございます。午前中の各学級の合唱、そして午後の演奏での、子供達の成長の様子をご覧いただき、お楽しみいただければありがたいです。どうぞよろしくお願ひいたします。

私自身も、本日の校内音楽会で「輝く ふじみ 696 の音色」を楽しみにしています。

熊谷市立富士見中学校長 田沼良宣